ロシア極東との交流推進プロジェクト

道北連携地域

【概要・目的】

道北連携地域は、宗谷海峡を隔てて国境を接し、歴史的にも繋がりが深いロシア連邦サハリン州をはじめ、ロシア極東地域と地理的に近い位置にあり、これまで文化、スポーツ、観光など市町村や民間団体などによる友好交流が盛んに行われています。

また、近年は道北地域が連携し、「ユジノサハリンスク道北物産展」を開催するとともに、道産品の販路拡大に向けてウラジオストク市で試験販売を実施するなど経済交流の芽が育ちつつあります。グローバル化の潮流を捉え、人口減少に伴う域内需要の減少に対応するためにも、これまで築いてきた友好関係と地理的優位性を活かしたロシア極東地域との経済交流をより一層推進し、地域経済の活性化を図ります。

【施策展開】

これまでの主な取組実績

■サハリン州等との友好交流の推進

- 経済交流促進会議、友好都市記念式典、青少年交流事業等及び企業研修生受入事業を実施（連携地域）（市町村・民間）
- サハリン航路を利用して稚内を訪れるロシア人観光客受入事業の実施（宗谷）（市・民間）
- サハリン野球連盟から青年野球チームを招聘して稚内の野球愛好者チームと合同練習、試合を行った。（宗谷地域）（市・民間）
- 旭川市とユジノサハリンスク市の友好都市提携50周年を機に、ユジノ市で道北物産展に合わせ記念式典及び交流事業を実施（上川）（旭川市）

■ロシア極東との人流・物流の活性化など経済交流の推進

- サハリン州で開催の「道北物産展＆北海道フェア」に参加し、現地業者と特産品や観光についての商談や一般消費者に対して、道北の食と観光のPRを実施（本庁・振興局・市町村・民間）
- 稚内－コルサコフ航路を利用した、北北海道の観光スポットを巡るモデルツアーを催行（宗谷）（市町村・民間）
- サハリンの食品バイヤー及び旅行代理店に対して道北の特産品や旅行商品について商談を実施（宗谷）（振興局）
- 若い世代や管内の人々にサハリンとの交流の歴史を理解してもらうため、マンガ小冊子「となりのサハリン」作成（宗谷）（振興局）
- 「ロシア連邦ハバロフスク市の国際見本市」（国際課参加事業）への商品提供（留萌）（振興局）

今年度の主な取組（令和元年度（2019年度））

■サハリン州等との友好交流の推進

・友好都市（ユジノサハリンスク市、コルサコフ市、ネベリスク市）との「友好都市経済交流促進会議」の開催（稚内市）
・青少年交流事業（稚内市）
・ロシア人企業研修生の受入（民間）
・大学生をサハリン州へ派遣し現地の学生と今後の交流について議論を交わすなど、相互理解を深めるため、サハリン州への学生交流派遣事業を実施

■ロシア極東との人流・物流の活性化など経済交流の推進

・道北9市で構成する「サハリン経済交流促進協議会」により道北物産展の開催、トライアル輸出、バイヤー招聘による商談会の事業を実施（市町村・民間）
・あらゆる機会を捉えて留萌産品のPRを進めていく予定（振興局）
・大学生をサハリン州へ派遣し現地の学生と今後の交流について議論を交わすなど、相互理解を深めるため、サハリン州への学生交流派遣事業を実施し、学生達によるSNSを活用した情報発信（振興局）【再掲】

今後の取組を進める上での主な課題

○交流環境の整備

- 稚内サハリン間の定期航路は、H30年度はロシア側の負担により運航したが、この形態は1年限りとなり、今年度の運航は休止
- 従来航路（旅客船）では採算が取れず、航路を維持するためには長期的な視点に立った運航スキームの構築や定時性や欠航リスクの少ない船舶の確保などが必要
- 管内における言語対応や交通機関の整備、宿泊施設におけるWi－Fiの整備などロシア人観光客を受け入れるために必要な環境整備
- サハリン州との物流活性化を見据えた輸送手段等の検討
- サハリン州住民への日本食・食文化の浸透による需要創出
- 食品以外の品目拡大
- 現地におけるビジネスパートナーの確保
- 食品等の販路拡大につなげていくには、ロシア人の食の嗜好等の情報が不足
- 水産物、水産加工品、肉製品、乳製品などが実質上輸出できないことから、商品の絞り込みが必要
- 食の販路拡大にあたっては、ロシア人の食の嗜好の研究をはじめ、通関手続の煩雑さや輸送手段の確保

ロシア極東との交流推進プロジェクト

道北連携地域

【施策展開】

次年度の取組（令和2年度（2020年度））

■サハリン州等との友好交流の推進
・友好都市（ユジノサハリンスク市、コルサコフ市、ネベリスク市）との「友好都市経済交流促進会議」を稚内において開催（稚内市）
・青少年交流事業（稚内市）
・ロシア人企業研修生の受入（民間）
・航路再開の場合、学童交流事業を実施（猿払村）
・現在、稚内～コルサコフ航路が休止となっている中、地域間での交流の継続のため、また、令和元年度事業の成果を活用するため、サハリン国立総合大学の学生が北海道を訪問し、稚内北星学園大学の学生との相互理解を深める。（振興局）

■ロシア極東との物流の活性化など経済交流の推進
・現在、稚内～コルサコフ航路が休止となっている中、地域間での交流の継続のため、また、令和元年度事業の成果を活用するため、サハリン国立総合大学の学生が北海道を訪問し、稚内北星学園大学の学生との相互理解を深める。（振興局）【再掲】
・サハリン経済交流促進協議会を発展的改組した「（仮）サハリン文化経済戦略協議会」にて、次の事業を実施（市町村）
　−ユジノサハリンスク道北物産展
　−ビジネスマッチング事業
　−メディア招聘事業
・あらゆる機会を捉えて留萌産品のPRを進めていく予定（振興局）

【ＫＰＩの状況】

	H26（基準）	H27	H28	H29	H30	R元	R2（目標）
北海道における訪日ロシア人（新千歳空港等経由）	5,949人	4,474人	4,004人	5,676人	6,516人		7,400人
		＜進捗率＞60%	54.1%	76.7%	88.1%		
北海道からロシアへの道産食品の輸出額	594百万円	933百万円	375百万円	540百万円	1,115百万円		900百万円
		＜進捗率＞104%	42%	60%	123.9%		